

平成 28 年度第 2 回奥州市水道事業運営審議会 会議録

会議の名称		平成 28 年度第 2 回奥州市水道事業運営審議会		
開催日時		平成 29 年 2 月 23 日（木）午前 10 時～午前 11 時 40 分		
開催場所		胆沢総合支所 3 階大会議会室	公開の可否	可
事務局（庶務）		水道部経営課	傍聴者数	なし
委員	出席者	菅原今朝男、菊池契、菅原宰、金野克枝、吉川正、鈴木敏也 及川千鶴子、佐々木キヲ子、菅原けい子、高橋有三（以上 10 人）		
	欠席者	鈴木勇基、和賀文子、佐藤康悦、菅原早苗（以上 4 名）		
市 （出席者）		千田正幸水道部長、鈴木淑子経営課長、千葉裕幸工務課長 高橋寿幸経営課長補佐、古山英範工務課長補佐（以上 5 名）		
議 題		<ul style="list-style-type: none"> ・奥州市水道事業ビジョン（素案）について ・奥州市水道事業経営戦略について 		
備 考				

会議内容		
件名	結果	特記事項
奥州市水道事業ビジョン（素案）について	次回に諮問	
奥州市水道事業経営戦略について	特なし	

1 1 開会

高橋経営課課長補佐

2 部長挨拶（要旨）

委員のみなさま、おはようございます。

本日は、ご多用のところ、今年度第 2 回目の水道事業運営審議会にご出席をいただきまして大変ありがとうございます。

さて、本日の審議会は、前回第 1 回の審議会におきましてお話をしておりました 水道事業ビジョンの素案についてお示しし、皆様方に内容の説明をさせていただきたいとのことで、開催するものでございます。

また、関連しまして、総務省が進める公営企業における中期的な経営の基本計画である「経営戦略」についても、案を提示させていただきたいと思っております。

水道事業ビジョン、経営戦略ともに、平成 39 年度まで 10 年先を見通したプランとなります。内容につきましては、この後、担当課長等から説明をさせますので、よろしくお願いたします。

（高橋経営課課長補佐）

続きまして、本日の会議の出席状況でございます。奥州市水道事業運営審議会委員は名簿のとおり 14 名ですが、本日、都合により鈴木勇基委員、和賀文子委員、佐藤康悦委員、そして菅原早苗委員の 4 名が欠席ですのでご報告いたします。

なお、奥州市水道事業運営審議会条例の規定により半数以上の出席となっておりますので、会議は成立します。

3 2 会長挨拶

各位のみなさま、おはようございます。昨年の会議は 6 月に当市の概要などをお聞きしたわけですが、それ以降の水道事業ビジョンという事で、市の総合計画等に近い重要な位置づけであり重要な計画であり、私たちに任せられました。本来であれば、事前配布しまして熟読していただきたいところであったのですが、事務局もいろいろと忙しいようで本日の配布となったわけですが、ご了承いただきたいと思っております。

本日の説明をお聞きいただき、忌憚のないご質疑を承りたいと思っております。よろしくお願いたします。

4 3 議事録署名人の指名

会長が、名簿順に菊池契副会長、菅原宰委員の2名を指名した。

5 4 説明

(1) 奥州市水道事業ビジョン(素案)について

説明 水道部経営課長 鈴木淑子

本来であれば、事前配布をするところでありましたが、作成作業の遅れで本日の配布となった事をお詫び申し上げます。

また、本日晒した素案は案まで至っていないものでありまして、数値の入れ替えやご意見を賜りながら成案として、今後諮問したいと考えております。

(以降、資料に基づき説明)

(菅原会長)

今日は素案でございますので、文言や係数については、最終案までに全体的に修正しますのでご了解願います。みなさま、よろしゅうございますか。

(一同、了承)

(質疑) (要旨)

(菊池副委員長)

まず、80 ページのタイトルからですけど、市総合計画との関連で、例えば人口の見通しとリンクしたものか、総合計画と摺合せしたものかどうか、お知らせいただければと思いますが。

(高橋経営課長補佐)

ただいまの、市総合計画、新たな奥州市総合計画ですが、今年3月の定例議会で提案されるわけですが、そちらの総合計画に含まれるす水道の事業については、こちらの水道ビジョンの中で同じような形で含まれるものです。なお、人口推計や水需要につきましては、総合計画では人口政策は、子育てプランとかさまざまな案で市の人口を増やしていくような、施策、あるいは現状維持という国の施策と相まって組み込まれていますが、水道の部分にあっては、あくまでも経営を重視することから、ある程度固めに見積もっております。あまり希望的要素を重視することは将来的に数値に乖離が出てくる差が出てくるおそれがある事から、経営収支を考慮しながら、市の人口計画よりは若干固めに見ております。なお、事業については、財政計画に反映しております。

(菅原宰委員)

67 ページになりますが、素案でございますので字句等は変わると思いますが、たまたま、あれっと思ったのですが、2) の (2) の中に東北地方太平洋沖地震とありますけども、こういう地震ありましたか。

(千葉工務課長)

東北地方太平洋沖地震ですが、地震の名前になっています。

東日本大震災と皆さんよく使われるんですが、あれは通称です。国が指定する名前といえ
ば東北地方太平洋沖地震となるものです。東日本大震災と書いても間違いではありません。

(吉川正委員)

括弧書きをして、東日本大震災と書いてはどうでしょうか。

(吉川正委員)

81 ページの次に付属資料とありますが、これにはどういった資料がつくのでしょうか。

あと 69 ページ (3) 官民連携、PPP が出てきますが、PPP の意味があればよいが、付属資
料のところに用語説明があったらいいのではないかと思います。

(高橋経営課長補佐)

ただいまのご意見でございますが、次第の方をご覧くださいますと、市長のあいさつの後
に、資料の 3 枚目に目次がございます。目次の裏面の最後に、付表・資料の項目ございま
す。そこで、業務指標とかさまざまな用語の説明を入れます。なかなか水道事業の場合、専
門用語と言いますか、分かりづらい部分があるものですから、コメントを入れるような形で
資料の最後のあたりに一覧を載せる予定でございます。用語解説を見ていただきながらイメ
ージを頭の中に入れていただくように配慮したいと考えております。

(及川千鶴子委員)

この資料は、全戸に配布となるものですか。

(鈴木経営課長)

全戸配布ではありません。

(佐々木キワ子委員)

全戸配布はならないという事ですが、見ただけでは、数字や用語に理解しづらいところ
があるんです。ビジョンを見る方、対象者というのはどういう方たちですか、市長、部長ク
ラスの方は目にすると思いますが、それより私たちと近い方といえどどこら辺までなの
でしょうか。

(高橋経営課長補佐)

今回は冊子としてお示しいているわけですが、概要版、ページ数であれば 3~4 ページ、一
般の方々にもわかりやすい形でホームページに載せていきたいと考えております。現行のビ
ジョンも、こういった冊子のものと、A3 判見開き 4 ページ程度のものを作成してます。水
道利用される市民の皆様方に読んでいただけるように、これから 10 年後中長期的な計画を知
っていただけるようにですね、分かりやすく作成していきたいと考えております。

(菅原会長)

細かい内容ではなく、コンパクトな概要計画にまとめ、お示しするようでございますので。

(菅原けい子委員)

3 ページ以降に取組みとか書いてありますけれども、実際に災害や地震を経験しまして、水が来ないことも経験していますので、市民としましては災害に強い、そして老朽管等を速やかに、徐々に直していただき、安全な水供給を推進していただきたいと思います。

(菅原会長)

いま言ったところが強靱というところなんです。これまでは、強靱という言葉は出てこなかったんです。

事務局から何かコメントをいただけますか。

(千葉工務課長)

今のご質問で言いますと、来年度 29 年度から新しく耐震化事業を取り入れやっていきます。また、老朽管更新をずうっと継続してやっていきますが、なにせ市内の管路延長、配水管で 1,860 キロくらいあるんです。それらを例えば全部直すといいますとそれこそ 100 年かかってもできない距離になっているんです。それで現状を申しますと、作ったときにどのくらいもつかという 耐用年数というのがあるわけですが、指標で一応 40 年という数値となっています。それじゃ 40 年を超えたものが壊れるかといいますと、実際壊れるわけではないのですが、漏水事故が時々あるんですが、その更新を古い順から順々にやっていくという事になると思います。現状では、27 年度末でいいますと 40 年を超えたものが、10.6% 1 割をちょっと超えていることになっています、これは 28、29 年と、1 年毎にどんどん増えていくというか、超えたものを全部やっていくということはなかなか追いつかない状況です。という事で、いろんなその細かい事は最後の事業内訳に出てきますが、そういった方面、全体的に安心なものを作っていくといいますか、いろんな事業をやりながら、そこで災害にも強いものを造ることを目指してやっていくものです。だいたい全国的には、管の更新率は、1% いていません、0.76% くらいだったと思いますが、財政的にも限度があるものなんです。うちの方でも 0.4% 弱なんです。それをやるにも先ほどの説明にもありました通り全体事業費でも約 20 億円という料金をいただいて実施しているものです。そういったところが現状です。一歩でも近づけていくことになります。

(高橋有三委員)

テキストにはないんですけども、水道料金は各市町村ごとに違うわけでしょうから、岩手県の中で奥州市はどのクラスにはいるわけでしょうか。

(鈴木経営課長)

他市との水道料金の比較、盛岡市、滝沢市、北上市、花巻市、沿岸とあるわけですが、その中では安い方、いちばん低価格は盛岡市、次が滝沢市、次が奥州市、県内では 3 番目、それから、岩手中部といたしまして花巻市、北上市がつづきまして、次が一関市、沿岸はどう

しても震災関係がありまして料金は高めかなというところでは、ここのはですね、料金のところは極端にほかの市町村と比べて高額とか今現在設定している価格よりずっと上がるという事ではなくて、やっぱり毎日使うもので生活に最高に身近なものですので、十分に考えて料金設定を考えていくということでございます。

(菅原会長)

それでは、関連しまして、来年は料金を改定して3年目ですが、今の予想では、改定はする方向でいくのか、様子を見るのか、違った内容ですが、そういうところについて、お聞きしたいのですが。

(鈴木経営課長)

27年度に5.2%で改定をしました。

当時、27年度から29年度まで3年間で収支の見通しを立て料金を改定しました。

30年度からどうなるのかということですが、今の段階で、いまのところ、上げるとか下げるとか、改定の明言はできません。まず、単年度ごとの決算や工事計画を入れ込んで、5年間の経営計画を立てているところです。また、経営する立場からは、赤字にすることはできませんので、いくらかでも・・・という気持ちはあります。でも、社会情勢などもありますので、そこら辺を総合的に考えていきたいと思えます。

今後、年度が変わりましたら収支の見通しを委員さん方に提示して審議していただきたいと考えております。

(菅原会長)

市では受水費として年間2億円くらい水を買っているわけですね。受水の概要についてちょっと話してもらえませんか。

(千葉工務課長)

昭和62年頃に胆沢ダムの建設の話が国の方から示されまして、今の奥州市、金ケ崎町を含めた胆江地方でダムに水源を求めましょうということで始まった事業です。当時は人口がどんどん増えるという計画で、将来的には今の水源では水が足りなくなるという話で、その不足分をダムからということで進んできました。

ダム完成が当初平成12年の完成予定でしたが、それが平成26年に延びました。それまで、平成の早い時期からダムの水を受けるために管の整備をどんどんやってきました。その後、管の整備も終わりました、約10年後にやっとダムが完成しました。しかし、その頃、見込んでいた人口が増えていないといえますか、減ってきている状況に変わってきたという事があります。いま1/3の一日14,600tという水を受けています。43500tは最終的な量ですので、このような人口が減ってきている状況の中で、水をもらう、買う計画も4段階で行きましょう、欲しくなる、例えば人口が増えてきたときに事業を実施するという4段階整備、施設をどんどん足していくような計画にしました。今は2段階目までできているのですが、次の3段階目に行くのに、たとえば人口がどんどん増える、今例えばILCという話があるんですが、ILCがくることで1万人増えるよとなると自己水源が足りなくなれば別ですが、なかなか

か進みません、お金がかかる、約 70 億円くらいかかる、本当にそれくらいの需要があるものかと思っています。

今、その分、自己水源を切り替えて、つぶして受水に切り替えているのですが、水源も古くなり水が湧かない井戸を変えているという状況です。中身を言いますと胆沢は全部受水、水沢は一部、江刺へもいっていますが、宮守境の梁川、前沢は約三分の一、衣川は北股といって一番西側から古戸に向かって受水となっています。ということで、今後の見通しはなかなか見えないんですが、いまのところは 14600 t というものが有効に使われているといたしますか、悪かった水源から切り替えて皆様に安心した水を送れている状況です。つぎの段階というものはまだ見えないというか見極められないという状況です。

(菊池副会長)

70 ページなんですけど、組織体制の見直しについてなんですが、新聞紙上にも掲載されてました水道事務所の移転問題ですが、明確に予定ですと載せていいものか、それからもう一つ、関連して効率化をしますということのなかで、事業に対応するために職員の増も視野に入れます、と意図的に書いてありますが、この二つについてはどうなのでしょう。

(千田水道部長)

それでは事務所の移転についてですが、市長決裁をとりまして平成 31 年 4 月移転として決定しています。ここでの明記は支障ないものでございます。また、職員の増員につきましては、現在の行財政計画の中で取り入れられているものではありません。今後、私共で具体的な事業を進めるために、アセットマネジメントという資産、水道管や施設の更新計画を立てるといふ事業を来年度、再来年度で実施します。総合計画で事業費は概ねのところを決めてはいますが、個々の具体的な事業費が出てきます。これによりまして、もっと事業費を増やすあるいは減らしても大丈夫だいうようになってきますので、その中で必要に応じて増員を計画して事業実施をしていきたいということで計画をあげているものでございます。

(菅原会長)

そのほか何かありませんか。

(発言なし)

それでは、次の(2)経営戦略に移ります。

(2) 奥州市水道事業経営戦略について

説明 水道部経営課長補佐 高橋寿幸

(質疑) (要旨)

(菊池副会長)

ダムからの受水の話ですが、これに伴い既存施設の見直しの状況、特に見分森とか、これの財産活用といいますか、これ以外にも水沢の旧事務所跡地の考え方、について状況をうか

がいたいと思います。

(鈴木経営課長)

今お話のありました秋葉町にございます、旧水沢市で使っていました旧事務所がありまして、今奥州市水道工事業協同組合の事務所、倉庫としてお貸ししています。すぐにやめるという状況ではございません。また、事務所のほかに倉庫がありまして、旧市町村の図面や都市整備部の図面や書類も入っています。書類の倉庫というところと奥州市水道工事業協同組合の事務所ということで、今の時点では、現状のままという考えです。

(千葉工務課長)

使わなくなった施設ということですが、見分森については、昔は緩速ろ過といって大きな池を使う水をつくる施設だったわけですが、ダムの受水に変わってから、いらなくなったわけですが、あそこに、配水池があるわけですが、かなり老朽化してしまっていて、今の計画ではこれに見合った新しい配水池 1500 t を二つ作る、43500 t の水を受けることで、一つ造りました。順次解体して同じ場所に造るという考えです。他の遊休施設は、危険なものから順次解体しています。毎年2から3施設程度を取り壊しているところです。2、3年前から取り壊しています。ただし中には、国庫補助により建ててしまっていて、あまり新しいうちに壊す場合は補助金を返してということもあり、そこらへんを考慮してやっているというところですね。

(菊池副会長)

廃止するにもやめて維持管理だけ引き続けることより、やめて処分するのがよいと思います。

(菅原会長)

何かコメントありますか。

(鈴木経営課長)

遊休施設ですが、26年からダム受水がはじまっているわけですが、遊休施設については、一回に全部解体はできませんので、それを順次廃止していく計画を立ててしまっていて、金額的には年間2千万円程度、これは皆様の水道料金から充てるのは厳しいので、一般会計から毎年2000万円いただいて壊していく計画を立てているものであります。

(菅原会長)

質疑を終結してよろしいでしょうか

(発言なし)

それでは、質疑を終了します。

次に、(3) その他に入ります。事務局からほかに何かありますか。

(千田水道部長)

これまで説明しましたが、目を通す時間が限られていますので、ご意見質問記載用紙を用意していますが、できれば来週いっぱい3月3日頃までで、ご意見を賜りたいと思っております。ご意見を踏まえまして成案とします。

また、次の会議は4月になって開催をしたいと思っております。開催日の2週間前にはご案内をいたします。事前に資料をお届けいたしますのでよろしく願いいたします。
そのほかにありますか。

(菅原会長)

いずれ水道事業ビジョンに何か疑義があれば、ご意見でも結構ですので出していただきたいと思っております。

(吉川正委員)

メールでもよいのですか

(高橋経営課長補佐)

結構です。

6 5 その他

(菅原会長)

それでは大きい5その他に入りますが、そのほか何かございますか。

(発言なし)

ないようでございますので、これで議事の一切を終了いたします。ありがとうございました。

7 6 閉会

高橋経営課長補佐